
ヅラえもん

柳雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヅラえもん

【Nコード】

N3184L

【作者名】

柳雨

【あらすじ】

野比のび太の家にやって来たのはご存知、青いネコ型ロボットの国民的超有名アニメキャラクター：ではなく、前代未聞のオヤヂ型ロボット・ヅラえもん（アル中）だった！？

(前書き)

※本作は子供達の夢をことごとく壊している展開に満ち溢れております…よいこの皆様、保護者の皆様は閲覧の際はくれぐれもご注意を…

そして藤子先生と全国のドラえもんファンの皆様、ごめんなさい

一野比家

「はぁー、あらいよつと…どっころしよ…ういゝ…。」

「なんだ、これ…。」

一野比のび太は絶句した。

一自分のロクに使わぬ勉強机から変なのが出てきたからだ。

一酔ってるのか？赤い顔で波平ハゲにチョビヒゲ、そして腹巻をしている典型的な日本の親父スタイルの…とにかく、変なのが現れた。

「ういゝ、ワシヤア未来からやって来たオヤヂ型ロボット・ヅラえもん、ダメでドジでマヌケなキサマの世話をしに来たんじゃい…ありがたく思…おげえええええ!!」

「オヤヂ型？ヅラえもん？…って、ああああああ!!何吐いてんだオッサンこらああああ!!?人ん家の人の部屋で!!」

「うぐ…ゲヴオアアアアア!!」

一ヅラえもんなるオヤヂ型ロボット(?)は自己紹介するやいなや、いきなりゲロい嘔吐物をのび太の部屋にブチ撒けた。

「…で?どう世話するの???」

「ういゝ…ひつく!この『四次元腹巻』の『親父道具』を使って…
だな…ういゝ…。」

「親父道具ってなんだよ…大丈夫なのか?この糞親父…。」

一酔いながら四次元腹巻を探るヅラえもんを疑いの眼で見つめながらのび太が口汚く罵る。

「あったあった…『どこでものれん』ゝ。」

一腹巻から出たのはパツと見、単なるのれんだった。

「どうすんだよ?こんなもん。」

「ういゝ…見てな…こう、戸に掛けてから戸をくぐると…ひつく!」

「別の場所に行くのか!?」

一ワクワクしながらヅラえもんと一緒にどこでものれんを掛けた戸を潜ると…。

一居酒屋だった。

「なんで居酒屋！？確かに別の場所来たけど、なんで居酒屋！？」

―その後、何度も諦めずに試したが、行き先は全部居酒屋だった…。

「好きな時に居酒屋で酒が呑めるんじやううい。」

「ふざけんなクルアアア！！居酒屋だけかよ！？」

「げおあ！？おぼおおあはあああ…。」

―のび太は怒ってヅラえものの腹を蹴る…まさか自分がリアルおやじ狩りを体験するとは蹴った本人さえも思わなかった。

「何が未来のオヤヂ型ロボットだ？ああ？ゴルフ！！てめえただのアル中じゃねえかッ！！」

「これだから最近の若いモンはキレやすくて嫌いじゃ…ゴク、ゴク…ぶはあ。」

―酒を呑みながらゲップをすると同時に尻から『ぶぼッ』という音にもわあ…という臭い臭いが…ぶっちゃけ放屁、全部のび太に命中した。

「言ってる側から酒呑むな…って、ゲップ臭ッ！？しかも屁まで！！」

「ごまけえこたあいんだよ…んが？」

―二人がいがみ合っていると勉強机からまた何かが現れた。

「ヅラえもんと同じく波平ハゲ、そして派手な衣装に厚化粧、見た目かなりブサイクな…これまた変なのが現れた。」

「ちよいと、兄貴、アタイの店のツケをいつになったら払うのよ？」

「おお、我が妹、ヅラみ…うい…。」

「妹!？」

「のび太はヅラえもんの妹、ヅラみちゃんを見て驚いた。」

「アタイはBAR『MELON』のママやってるヅラみってもんよ、坊や…話戻すけど今年入ってから一円も返してないじゃない!早く返さないと訴えるわよッ!？」

「うい…なんのことやら…『するめコプター』。」

「ヅラえもんはとぼけながら腹巻からするめコプター…っていうか単なるするめを出すと、するめの頭を自分の頭に刺すと同時にするめの足が広がりプロペラの様に回転…お空に飛んで逃げた。」

「逃げんなやああ!金返せ!殺すぞてめえ!!」

「アンタは借金取りのチンピラかよ…。」

「怒鳴るヅラみちゃんを見てのび太は呟く。」

「その後、なんやかんやでヅラえもんと暮らすことになったのび太。」

—しかし…。

「ういゝ…酒じゃ酒じゃ…。」

—ヅラえもんはのび太の部屋で昼夜問わず毎日酒を呑むだけ、たまに外に出ることもあるが全てパチスロや競馬だった。

「アル中でめえ、また酒呑んでんのかよ…んん!？」

—のび太は酒臭くなった自分の部屋に嫌悪感をあらわにし、アル中を見下しながら言う…あるものに気づく。

「あああああ!?! 僕の貯金箱があああああ!?! しかも金が全部無ええええええ!?!」

—のび太の愛らしいブタさん貯金箱が残酷なまでに粉碎され、しかも札はおろか小銭すら無かった。

「酒代が足りなくて…ガフ!?!」

「返せ! 返せねえなら今すぐ死ねええええええ!?! 死んでワビ入れろや!?!」

一身勝手な理由で貯蓄をパーにされたのび太は容赦無くヅラえものの顔面にストレートをブチかまし、そのままマウントポジションを取り、フルボッコした。

ー：今日は野球でミスしてジャイアンに殴られたため非常に気が立ってたのでパンチの一発一発の威力がハンパなかった。

ー毎日のび太のストレスを増やしまくり（その代わり、仕返しにのび太のストレスのはけ口になるが…）なヅラえもん、そしてある日…コイツはマジでシャレンならん事件を起こした、それは…。

「只今…って……………は？」

「しずかちゃん。」

「だめ、だめよ、ヅラちゃん…のび太さんが帰ってきたらなんて言うか…あああ！！」

ー…布団の中でヅラえもんがしずかちゃんと『エキサイティング禁則事項』していた…。

ー※ちなみにその内容に関して詳しく書くと非常にヤバイことになるため、何が起こってるかは、読者の皆様よめいのイメージにお任せしま

す
:
b
y.
作者。

「アンアンアン…♪とっても大好き♪…ヅラえ…」

「言わせねえよ!!」

「キヤア!？」

「しずかちゃん！」

一どこかで聞いたようなフレーズの歌を歌いながら『大人の事情』
エキサイトینگ
してるしずかにのび太は強烈なビンタをかました。

「何するんじや、キサマ！」

「アル中ウウウウ!! 人のオンナに何しやがんだあ ああああ!!」

「やめて！違う…違うのよ！！のび太さん！！」

「てめえは黙つてろ！今まで我慢してきたがもう許さん…ジャンクにしてやんよッ！！」

「あべし!？」

一瞬間、怒り狂ったのび太はバットでヅラえものの頭にホームラン級の打撃を与える、球は打てなくてもアタマは打てる。

「やめて〜！ ヅラちゃんを殺さないで〜…ひでぶッ！！」

ああああああああああああああああああああああああああああああ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3184/>

ヅラえもん

2010年10月11日02時59分発行